

くろう者・手話関係者文教警察委員会傍聴①>

10日10:30、文教警察委員会の1日目が開かれ、その24号議案で校名変更が取り上げられた。山本事務局長ほか、ろう者5人と手話関係者9人がモニター室にて傍聴した。

モニター室にはテレビが7台あって、7つの委員会を映し出しているが、そこには音声は流れていない。

健聴者は自分が聞きたい委員会のチャンネルにあわせて審議の内容を聞く。(飛行機の音楽を聴くのと同じ方法)

委員会が始まってまもなく、校名変更が審議される「第6委員会」のチャンネルに突然雑音が入り、通訳者も他の傍聴者もほとんど聞き取ることができなくなった。他の委員会のはっきりと聞えるのに、ここだけが聞こえなかったので、通訳者はイヤホンの向きを変えたり、場所を移動してみたり大変苦労している様子だった。

通訳者は必死で聞き取ろうとしていたが、モニター室では最後まで音声は回復しなかった。議員の質問と県教委の答弁も内容がよく分からず、私たちは、せっかくの傍聴が無駄になってしまうのではないかという不安が募った。

午後になっても音声は復旧しないので、山本事務局長と藤原友子、鈴木礼子理事と通訳者だけが委員会の部屋に入ることを認められた。(狭く、3人までしか入れない)

議員の質問、意見をまとめると以下のとおり。(イヤホンが聞こえないので、健聴者が聞きとれた部分のメモをまとめた内容に留まる)

自民党(焼津市)八木健次議員「校名変更は県教委が静聴協とよく話し合いを持つように」

平成21(富士市)桜町宏毅議員「朝日の記事を見た。なぜ今議会への上程なのか?他県は慎重なところもあるが?県教委は静聴協との話し合いが平行線というが、そこがずっと引っかかる。静聴協と1年かけて話し合い、来年4月からの改正は考えられないか?」

自民(浜松市西区)鈴木洋祐議員「今回初めて聞えない人と話した。聾学校の専門性が薄まるのが心配である。時間をかけて話合うように。」

平成21(浜松市北区)野澤義雄議員「なぜ養護だけが特別支援学校か?関係団体が反対を訴えている。静岡県独自の名称があっても良い。

議会上程が拙速すぎるのでは?当時者団体と十分な話し合いが必要ではないか?」

県教委の答弁は、こちらのHPやブログにのっているものとほとんど変わらないようであ

った。

終了後、山本事務局長たちはマスコミ各社の取材を受けた。

山本事務局長から「あなた〇〇特別支援学校に行きたいか？」と尋ねられ、初めてその差別観に気づいた記者もいた。

また、朝日の記事を見た多くの一般の人がネット上で「ほんとだ！」と共感を寄せてくれている。一般の方々からも「何かお役に立てることがありますか？」とのご連絡をいただいている。

上程をしたら必ず可決といわれる厳しい闘いだが、百年の伝統ある校名が「聴覚特別支援学校」などというわけが分からない名称に変わり、聞えない子どもに「もっと聞えるようになれ！口元を見て努力しろ！」と強制する大昔に逆戻りしてしまわないよう、最後まで希望を捨てないようにしたい。